

熱海市 ATAMI ART EXPO で 藤原さん（副支部長）が書作の展示会を開催

熱海市の芸術祭 ATAMI ART EXPO が10月22日（金）から24日（日）まで開催され、その中心会場の起雲閣に藤原ひさ子さん（柏陵同窓会東京支部副支部長）の書作が展示されました。前日の冷たい秋雨が降り止み穏やかな秋晴れとなった10月23日（土）、池袋から湘南新宿ライン・東海道線と乗り継ぎ熱海に向かいましてのご報告いたします。



「藤原さんの書
書作と表装、展示ポスター」

ATAMI ART EXPO が開催された起雲閣は大正時代に根津嘉一郎など三人の資産家による別荘として建設され、その後3回の増改築を経て緑豊かな庭園と和室と洋間を設えた美しい日本家屋に整えられました。戦後の起雲閣は、旅館として利用されていたので数多くの著名な文豪などに親しまれており、旅館を廃業後は、現在に至るまで熱海市の文化財として維持されています。

藤原さんの作品は、書と表装が互いに相和するように古衣着物や帯などに合う書を書かれたり、また書に合う装地を自ら選び表装されています。そのため、ART EXPO では起雲閣の小ぶりな和室の一室を利用し作品展示がなされましたが、今回は「冬の衣袴」の作品を見たいとの要望が以前よりあり、それに応えるべく、共著者であり友人で歌人の原谷洋美さん（同会東京支部副支部長）による歌の中から十数首を選び、その原稿作品が展示する和室に合うよう表装を心掛けたとのこと。

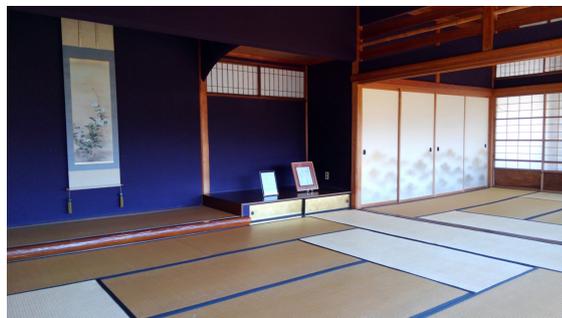


藤原さんの書作 書と表装 筆で書かれた私信を頂くことはありませんでしたが、藤原さんの書の著作をじっくりと見せて頂くのは初めてでしたので、充実した気持ちで楽しませて頂きました。

設け豊かな多くの和室と洋間の組み合わせあった落ち着いたある歴史的建造物と広い庭園に囲まれた起雲閣、それらを包み込む温かな熱海の文化など、贅沢な書道作品を鑑賞した幸せな一日となりました。
- 起雲閣では多くの柏陵の関係者ともお目に掛ることが出来ました。



起雲閣の庭



起雲閣の和室



藤原さんの書作 書と表装

（文責 谷 敬三）